

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

| | |
|--|-------------------|
| ふり 氏 名 | ますい かずひろ 増井 一弘 |
| (研究テーマ名) 現代英文学における第二次世界大戦を巡る表象と作家の記憶とトラウマをめぐって (Memory, Trauma and Representations of the Second World War in Modern British Fiction) | |
| (研究活動実績) <p>この1年間、都市文化研究センター研究員として、20世紀英文学と第二次世界大戦との関係を都市ロンドンの空襲の表象を中心に、当時のイギリスの社会的・政治的状況の変化や思想状況の研究を行ってきた。特に、第二次世界大戦を巡る表象と作家の記憶とトラウマを中心的な主題とし、Postwar Writers とよばれる戦後世代の作家が、テキストという媒体を使ってどのように戦争や都市空襲を表象したか、そして作家が抱く大戦の記憶を21世紀の読者に伝える意味はいかなるものなのかを考察してきた。特に今年度は、平成23年度から参加している、京都大学人文科学研究所における「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究」の定期研究会において、米文学及び日本文学作品とトラウマとの関係性について発表が行われ、私はコメンテーターとして参加し論評を行った。これらの有益な発表から、新たな課題として、文学テキストにおいてトラウマを語ることの政治性ととも、文学作品がトラウマに苦しむ個人や集団を癒すことが可能かどうか考える必要があるように思われた。今後は、第二次世界大戦中の、イギリスの都市ロンドンを主たる舞台として描かれた作品に着目し、作品中の登場人物のトラウマと作家自身の体験との間に関係性があるかどうか明らかにし、その現代的意味や、トラウマの癒しまたは昇華の可能性について、研究を行っていきたい。来年度は、その成果の一部を、京都大学人文科学研究所の研究会誌に投稿する予定である。</p> | |